

# 「婚活」の誕生から10年 ～未婚の男女はなぜ 増えたのか～

直近の国勢調査からの推計により、男性の生涯未婚率が25%に近づくと報告され、ニュース等でも大きく報道されました。若者・青年世代はなぜ結婚しなくなったのか？格差の問題などとの関係は？など、この問題に1990年代から取り組んでこられ、「婚活」という言葉の名付け親である山田昌弘教授がわかりやすく解説します。



【講師】山田 昌弘  
(やまだ まさひろ)

日時：平成29年11月11日（土）午後1時30分～3時30分  
会場：多摩平の森ふれあい館3F 多摩平交流センター定員80名  
申し込み：平成29年9月19日（火）より中央公民館高幡台分室にて 電話 042-592-0864 または直接来館  
中央公民館ホームページから電子申請、申し込み用QRコードからも申し込めます



申し込み用QRコード



JR中央線豊田駅北口より徒歩約7分  
約600メートル  
イオンモール東側

現在、中央大学・文学部・教授。 家族社会学者  
1957年、東京生まれ。1981年東京大学文学部卒。  
1986年東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学  
東京学芸大学助手、講師、助教授、教授を経て、2008年より現職  
(1993年 カリフォルニア大学バークレー校社会学部客員研究員)  
(2014年 香港中文大学ジェンダー研究所客員教授)  
\* 専攻 家族社会学・感情社会学。

愛情やお金を切り口として、親子・夫婦・恋人などの人間関係を社会的に読み解く試みを行っている。「パラサイト・シングル」の生みの親で、精緻な社会調査をもとに「学卒後も親と同居し、基礎的生活条件を親に依存している未婚者＝パラサイト・シングル」の実態や意識について分析した著書「パラサイト・シングルの時代」（ちくま新書、1999年）は話題を呼んだ。政治・経済の領域と同じように、家族においても「今までと同じやり方ではうまくいかない」という現実を見つめ、戦略的思考で家族生活のリスクマネジメントを行うべき時代だと説いている。1990年代後半から日本社会が変質し、若者の多くから希望が失われていく状況を「希望格差社会」と名づけ、格差社会論の先鞭をつけた。2006年のユークアン新語流行語大賞トップ10に選ばれる。また、「婚活（結婚活動）」の名付け親でもあり、『婚活時代』（共著、ディスカヴァー21、2008年）は20万部のベストセラーになる。著書は「近代家族のゆくえ」（新曜社、1994年）、「家族ペット」（2004年→文春文庫）、「希望格差社会」（2004年→ちくま文庫）「迷走する家族」（有斐閣、2005年）「新平等社会」（文藝春秋2006年 - 日経BP社 Biz Tech 図書賞受賞）「少子社会日本」（岩波新書、2007年）「婚活時代」（共著、ディスカヴァー21、2008年）『なぜ日本は若者に冷酷なのか』（東洋経済新報社 2013年）『家族難民』（朝日新聞出版、2014年）、『女性活躍後進国ニッポン』（岩波ブックレット 2015年）など多数。近著に『モテる構造』（ちくま新書2016年）など。

読売新聞「人生案内」回答者、毎日新聞「くらしの明日」レギュラーなど

日本学術会議連携会員。東京都社会福祉審議会委員、男女平等参画審議会委員。内閣府男女共同参画会議専門委員。家族問題研究学会会長、その他、公職を歴任している。

平成29年11月14日まで掲示